



TITLE:

<研究・技術報告>オカヤドカリ類
（甲殻類, 異尾類）の幼体を京都大
学瀬戸臨海実験所"北浜"で2011年
秋季に再発見

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. <研究・技術報告>オカヤドカリ類（甲殻類, 異尾類）の幼体を京都大学瀬戸臨海実験所"北浜"で2011年秋季に再発見. 瀬戸臨海実験所年報 2011, 24: 49-50

ISSUE DATE:

2011-12-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179236>

RIGHT:

オカヤドカリ類（甲殻類，異尾類）の幼体を京都大学瀬戸臨海実験所 “北浜”で 2011 年秋季に再発見

久保田 信

Rediscovery of juveniles of *Coenobita* sp. (Crustacea, Anomura) in autumn in 2011 at
“Kitahama beach” of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University

Shin Kubota

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県白浜町 459)

世界の熱帯・亜熱帯を中心に分布するオカヤドカリ類 15 種の内の 7 種が日本に生息し、自然分布の地理的北限は紀伊半島沿岸とされている（小宅・藤川, 2009）。最近の紀南地域での出現（古座九龍島、紀伊大島、すさみ江須崎、田辺市）は紀伊民報（2004; 2006a,b; 2007; 2008a, b）などで知られているが、この内、田辺市の記録だけは自然分布ではなく、ペットの逃亡と推定されている。

和歌山県西牟婁郡白浜町ではオカヤドカリ類について古くから生息記録があり（三宅, 1951）、越冬も観察されている（池田・今福, 1987）。京都大学瀬戸臨海実験所が保管する標本の中にも、かつて（恐らく 1950 年以前）瀬戸（白浜町）から採集されたオカヤドカリ類の大型 2 個体の液浸標本がある。

その後、白浜周辺海域からオカヤドカリ類に関する報告は途絶えていた。しかし、ムラサキオカヤドカリ *Coenobita purpureus* が、2011 年に白浜町に所在する瀬戸臨海実験所構内やその付近で多数の大型個体が出現し（紀伊民報, 2011a）、その年の 11 月下旬までに番所山で 124 個体マー

キングし、構内および実験所付近でも 114 個体にマーキングした。特筆すべきは、京都大学瀬戸臨海実験所“南浜”で、少数例ではあるが、幼生を本州で初めてリリースするのを目撃できた（紀伊民報, 2011b; 久保田, 2011）。実験所付近でこの行動がみられても、奄美諸島以北の地域では残念ながら再生産につながらないとされているので、無効分散となるのだろう（朝倉, 2004; 小宅・藤川, 2009）

一方で、南方より黒潮に乗って幼生が運ばれてきていることは十分推察でき、現に“北浜”でも年によって（例えば 2006 年）大量の幼体が出現したことがある（紀伊民報, 2006b）。

そこで、“北浜”におけるオカヤドカリ類の定着したばかりの幼体の出現にも留意し、筆者が瀬戸臨海実験所に在中時は、毎日 1 回、周辺海域で生息調査を実施している。幼体は毎年決まって出現しないものの、2011 年には 10 月中旬に 2 回、少数ずつが発見できたので報告する（2011 年 1 月初旬から 11 月下旬までの調査結果）。なお、瀬戸臨海実験所“南浜”では、2006 年の時と異なり、今回は、今年定着したばかり

の幼体は見つからなかった。

幼体の最初の発見は2011年10月16日の3個体で、“北浜”の船着場の石組みの間とそこに沿った砂浜の上を元気に這いまわっていた。2回目はそれから3日後の10月19日で、発見した2個体は最初と同地点にいた。これらは1回目の全個体よりやや大きめで、甲長がそれぞれ3.2 mm, 4.1 mmで、宿貝はヒメヨウラクとミクリガイだった(図1)。これらは採取して県と町の許可(指令文第120(3))を得て飼育中である。種の査定は、小さいので困難であった。

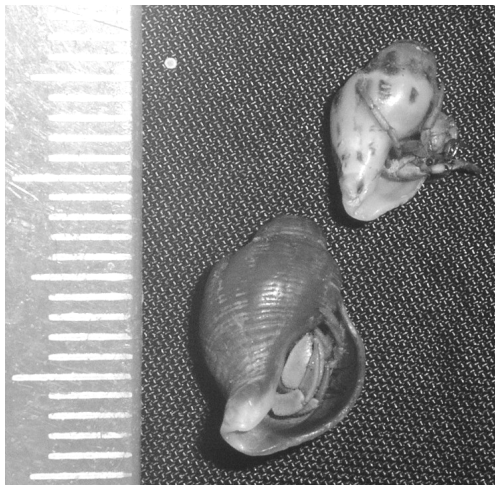


図1. 2011年10月19日に瀬戸臨海実験所“北浜”に出現したオカヤドカリ類の幼体

謝辞

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所に保管されているオカヤドカリ類の標本について貴重な情報を示して下さいました今岡 亨氏に深謝致します。また南紀地域でのオカヤドカリ類の報道資料を提供して下さいました山口一夫記者に深謝致します。

引用文献

- 朝倉 彰. ヤドカリ類の分類学, 最近の話題—
オカヤドカリ科 海洋と生物, 26(1): 83-89.
- 池田久和・今福道夫. 1987. 白浜におけるオカヤドカリの越冬. 南紀生物, 29(2): 84-88.
- 紀伊民報. 2004. 大島でも見つかった国天然記念物ムラサキオカヤドカリ. 6月18日付4面.
- 紀伊民報. 2006a. 九龍島の自然や歴史語る. 3月17日付4面.
- 紀伊民報. 2006b. 国の天然記念物 オカヤドカリが最多 北限近くの白浜過去10年で夏の高水温が影響か. 11月12日付1面.
- 紀伊民報. 2007. 住宅地にヤドカリ 田辺市新万. 6月21日付9面.
- 紀伊民報. 2008a. ふるさとエッセイ オカヤドカリ調査. 6月7日付16面.
- 紀伊民報. 2008b. 小さな島にさまざまな生物. 11月27日付11面.
- 紀伊民報. 2011a. 国の天然記念物 オカヤドカリを調査 白浜番所山で京大准教授. 6月10日付13面.
- 紀伊民報. 2011b. オカヤドカリ放幼行動を確認 白浜の海岸で本州初. 10月20日付9面.
- 久保田 信. 2011. ムラサキオカヤドカリ(甲殻類、異尾類)の海岸での本州初の幼生の放出の確認. 日本生物地理学会会報, 66: in press.
- 三宅貞祥. 1951. 紀州産異尾類目録. 南紀生物, 2(3/4): 127-140.
- 小宅昭樹・藤川知之. 2009. 相模湾真鶴岬におけるオカヤドカリ属の観察記録について. 神奈川自然誌資料, (30): 55-64.